

1. 西日本豪雨(18年7月)での真備の被害

①堤防決壊：末政川3カ所、高間川2カ所、真谷川1カ所

(小田川支流の小規模河川の氾濫——水位計無し)

小田川は同一高度を東西に流れる、高梁川は南北に流れる急流(?)

②浸水面積：1200ha, 浸水家屋：4600戸

③死者：51名 内42名は家屋内(41人は1階で溺死)、内36名は災害弱者

2. 避難の実態

①避難所キャパ：520人(洪水対応避難所は3カ所)

避難民は数千人が殺到、オーバー人員は他自治体の協力を仰ぐ

②避難契機は「TV、ラジオ30%」「メール、インターネット65%」

「無線、広報車25%」「口頭呼びかけ15%」

③避難場所は、「自宅以外55%」「自宅45%…この多さが④に！」

④屋根・二階への垂直避難者2350名は、消防・自衛隊のボート・ヘリで救出

真備町の水没現場

(真備は明治以降5回の水没災害を経験・・・水没しやすい地形)



向かいの建物は屋根を残して水没



真備駅近くのアパートの赤線まで水没

小田川決壊現場と堤防嵩上げ工事



決壊現場・家々は健在に見えても大部分は
避難所生活(今も2千世帯5千人)



説明を聞くメンバーの真剣さを見よ！

ハザードマップ通りの浸水――>緊急治水工事



東西の小田川が南北の高梁川にぶつかりバックウォーターが発生した事が今回の災害の根本原因

小田川の流れを高梁川合流の直前で南北に変更し、高梁川と同じ高低差で合流させる治水対策を実施中

丘を削って小田川の流れを変える工事

(大正末に陸地化した高梁川を利用…昔の高梁川は2本の流れ)



丘を削って土砂を採取、小田川の流れ
変更の堤防工事(頂上付近に毛利の出城跡)



奥の池を嵩上げる土砂を投入し
変更小田川の一部とする工事

小田川合流点付け替え工事



真備で残された課題――>自分の地域も同じ課題が無いか？

1. 中小河川の水位計未設置（被災時は小田川に2カ所のみ）
――>小田川 x 6（国）、中小河川 x 3（県）に追加設置
リアルタイム水位観測とネット閲覧を可能にする
2. 洪水避難所キャパ不足（現状は3カ所のみ）――>『広域避難』の制度化
――>各学区内に1カ所以上の「浸水時緊急避難場所」を設置
3. 自治会単位の自主防災活動
――>実践的な内容になっていない――>津山市城東地区の事例研究
特に「要支援者情報」の取得と共有不備が露呈――>『声かけ』
4. 福祉避難所（35カ所）――>周知不足、理解不十分
――>住民・施設への説明／啓発
――>施設と市職員の連携・役割分担マニュアルの整備
5. 受援物資／ボランティア受け入れ・分担・連携不足――>要検討課題
6. ハザードマップ、避難情報が住民目線で「避難契機」となる表現の検討
7. 機動的・有機的災害情報／通信システムの構築――重要課題

大水害の真の原因は？ 人災？ ……稲垣の推論(独断・偏見??)

1. 歴史から見ると

①昔から高梁川は『暴れ川』と呼ばれ50年~80年周期で氾濫

明治26年にも大氾濫、昭和46年にも氾濫を経験、学びは? ……嵩上げ家屋無し!

②大正末期に高梁川の2本の流れの1本を陸地化工事して1本化。

治水予算の削減/倉敷の安全性確保?? ……2本あれば今回の水害は防げた?

③昨今の豪雨傾向で、小田川の流れを変更して高梁川に合流させる

治水10年計画(陸地化した川の復活)が浮上 ……早くやっていたら!!

――> 今回の被災で漸く5年計画に短縮化?(危機感の希薄?)

2. 上流ダムの放流は正しかったか?

①上流の新成羽・河本ダムの放流が、高梁川の増水・激流化を招き、

増水した小田川が合流点でバックウォーターを招いたのが真の原因??

②ダムの役割を従来型の農業・飲料水から、治水重視型(平時放流)への変更と

する契機とすべきか(ハッ場は19号台風時、空ダムで下流増水防止)?

備中高松城水攻め・・黒田如水の知恵？

黒田如水は備前福岡で育ち、後に九州博多の大名になった時に「地名」を『福岡』と変えて岡山を忘れなかった。今でも備前福岡には黒田家の墓がある。



城の周りは沼地で難攻不落



秀吉水攻めと清水宗治切腹の記念館

秀吉は2.6km堤防を12日で完成(軍師黒田如水の知恵)

現代の小田川流れ変更工事は4.6kmを5年間(当初10年計画を短縮)・・・本気度？
(川の流れを変更して町を水没→備中の平野部の地形を利用→真備と同じ！！)



豊臣/毛利の布陣図と築堤の位置

水攻めは、その後千葉の忍城攻略でも(映画『のぼうの城』)

城を囲む水に船を浮かべて、秀吉の前で切腹→これで「中国大返し」成功！！

→「猿が麒麟を討った」

清水宗治:岡山武士の鑑・・・ トップの責任とは？



切腹して部下の命を救った清水宗治



宗治の辞世の句

浮世をば今こそ渡れ武士の名を高松の苔に残して

岡山県ってどんな所？…3づくしで説明

(3国＝備前・備中・美作) (3大河川＝吉井・旭・高梁川) (3名城＝鳥城、松山城、鶴山城)



人名を冠した鉄道駅が3カ所！！

1. 宮本武蔵駅

吉川英治は武蔵誕生地を美作とした（播磨説もある？）
（美作は稲垣の故郷。3.23 NHK鶴瓶「家族に乾杯」で放映）
智頭急行線の大原地区に宮本武蔵駅がある

2. 吉備真備駅

井原鉄道線に吉備真備駅がある
遣唐使（在唐17年）で最高の技術官僚（最後は右大臣）
カタカナ創始者、囲碁を唐から持ち帰ったとの俗説あり
（囲碁は邪馬台国時代から、カタカナは9世紀から?）

3. (山田)方谷駅

伯備線の高梁市に方谷駅がある
幕末に備中松山の改革派家老（陽明学者）として辣腕、
最後の老中板倉勝静の知恵袋
司馬遼太郎は「峠」で長岡藩の河井継之助が方谷の
下で学んだ、と記述

（黒田如水ゆかりの福岡の地名は今でも備前市に在る）